

第3回 福岡市道路整備懇談会 議事録

■日時：令和7年2月14日（金）13:30～14:30

■場所：エルガーラホール7階 中ホール2

■出席者：＜委員＞

座長 松永 千晶（福岡女子大学国際文理学部環境科学科 准教授）
伊賀上 恵子（公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 事務局長）
入江 晋（公益社団法人福岡市老人クラブ連合会 常務理事）
甲斐 絵里（福岡市道路利用者会議 理事）
柴田 久（福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授）
清水 邦之（NPO 法人福岡市障害者関係団体協議会 理事長）
萩島 理（九州大学大学院総合理工学研究院 教授・副理事）
村上 哲（福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授）

＜行政アドバイザー＞

金井 仁志（国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所長）
松岡 淳（福岡市住宅都市局都市計画部長）

＜事務局＞

道路下水道局計画部道路計画課

■議事概要：◎座長 ○委員 □行政アドバイザー △事務局

- | | |
|---------------------------------|-------|
| (1) 第2回道路整備懇談会の振り返りについて | } 資料1 |
| (2) 福岡市道路整備アクションプラン2028（原案）について | |
| (3) 整備路線の選定について | |
| (4) 今後のスケジュールについて | |

■議事録：

(1) 第2回道路整備懇談会の振り返りについて

特に意見なし

(2) 福岡市道路整備アクションプラン2028（原案）について

（柱1：安全・安心でみんなにやさしい道づくり）

- 点字ブロックの設置が進んでいるが、私たち車椅子利用者は点字ブロック部分を走行する際に振動がする。博多駅においては、すでに取り組みされているが、連続する点字ブロック部分において、車椅子が通行出来るようなスペースを設けるなどの工夫をしていただけると通行しやすくなる。
- 認知症の方を含めた、分かりやすいサインの設置はぜひ進めていただきたい。
歩道のフラット化と段差の無い縁石については、バリアフリーという際には必ず出てくるものであるが、実際には実行できていないと感じている。ぜひ、道路整備アクションプランで整備を進めていただきたい。

(柱2：都市の魅力・活力を高める道づくり)

○良くまとめられていると思う。

都市の魅力・活力を高める上で、参考事例にも掲載されているが、歩道舗装がべんがら色になっており、その横には青色の自転車通行帯がある。安全性を考慮して歩道部分や自転車通行帯を可視化することはあると思うが、こういった色を塗ることで都市の魅力が上がるという風に感覚的に思われると良くない。

市民意見の中で、緑が増えると良いといった意見があったが、自然の緑以上に舗装の色が目立ってしまう景観がはたして美しいかと言えば、そうではないと考えている。

自転車通行帯の青色は国のガイドラインでは、景観的に配慮が必要な場合は、青色でなくても良いことになっている。

場所に応じて、舗装の表面的な色に頼らず、いかに道路景観の魅力を上げていくかということを、道路整備アクションプランに記載いただければと思う。

○楽しくて居心地が良い道路空間の創出・活用の部分に記載されているような、魅力的な道路空間があればいいなと考えていますので、積極的に取り組んでもらえればと思う。

特に、緑という点もしっかりと道路整備アクションプランに入れていただければと思う。

観光の視点については、様々な整備をしていただけており、有難いと感じている。

福岡市に来られる方については、食を強調されているが、やはり街が綺麗ということはすごく大事だと思う。そういった所に取り組んでいただける計画となっているため、引き続き、整備をよろしくお願ひしたい。

まちづくりについても、天神ビッグバンなどたくさんのプロジェクトが動いており、いろいろな空間が新しく出来るタイミングはチャンスであるため、まちづくりとしっかり連携して、道路空間と公開空地との調整などを行い、街の魅力向上に取り組んでいただければと思う。

(柱3：災害に強い道づくり)

○第2回道路整備懇談会で意見させていただいた、擁壁など道路周辺も含めて維持管理していくことについて、計画に反映されており有難いと感じた。

最近では、埼玉県における下水道による崩落事故などもあり、普段使っている道路の安全性に対する市民の関心は高くなっている。道路の点検結果などは、道路管理者のみで保有するのではなく、市民など他の方に共有できる仕組みがあれば良いと感じた。

市民は災害時において、どの道路が安全に通行できるのか知りたいと思うため、まずは道路管理者のチェック体制を充実させることが重要であるが、それを市民にどう共有していくかも含めて検討いただければと思う。

○業者の方などから地下埋設物について、道路を掘ってみたら、管理している図面と違う管路が入っている場合や、異なる位置に入っている場合があると聞いたことがある。自分たちの道路の下にどういった地下埋設物が入っているか、正確な情報を把握し、適切な管理をしていただければと思う。

(柱4：環境にやさしい道づくり)

○とても良くまとまっているなと感じた。

特に、低炭素な建設資材については、今後必要になってくるかと思う。

街路樹による道路緑化の記載について、二酸化炭素の吸収などの効果も良いが、むしろ街路樹で日陰を作る、緑陰を作るということで、街路の夏の暑熱緩和に効果的ということにも触れたら良いのではないかと思います。

実際には、施設の長寿命化や渋滞解消するような道路計画などが脱炭素には大きく貢献すると思う。他の柱に記載されているような主要施策も、環境にやさしい取り組みであるということに記載しても良いのではないかと思います。

- 低炭素なアスファルト混合物については、既に東京都でも取り組まれており、2022年6月に承認されたと聞いている。今後の課題としては、業界でも期待されている水素燃料やアンモニア燃料を利用するアスファルト合材の生産設備の普及において、安定的な供給を確立することが重要となってくる。

このような社会インフラの整備は、業界のみではなく、関係機関のバックアップが何よりも重要であるため、早期に実現に向けた話し合いの場を設けていただければと思う。

- 環境に配慮した舗装材について、これからこういった新技術などを活用して、夏の暑さに耐えていかないといけないなと感じた。

雨は降るときは降る、降らない時は降らないと言われており、資料に記載のある保水性舗装については、雨を待って乾いてしまい、上手く機能しないことも考えられるのではないかと思います。

液状化対策として、地下水位が高いところで地下水位を下げるような取り組みも行っている。熊本では、地下水低下工法を採用して地下水を汲み上げている事例がある。例えば、保水性舗装の機能を確保するために地下水を汲み上げて利用することで、暑さ対策になるとともに、液状化対策にもなるなど、環境と災害のどちらにも寄与するような先進的な取り組みを検討しても良いのではないかと思います。

- 車椅子利用者や視覚障がいの方は街路樹を避けて通るのが難しい時もある。緑によって憩いや安らぎなどの効果もあるが、歩道に街路樹があると通りづらいといった事も考えられるため、整備にあたっては、配慮いただけると有難い。

車椅子利用者や視覚障がいの方は、バスの乗り降りが難しいため、特にバス停付近は十分な歩道の広さを確保した上で整備していただきたい。

また、一人一花運動でフラワーポットを置いている箇所もあるが、同様に配慮いただけると有難い。

(3) 整備路線の選定について

□都市計画道路の延長が約506kmあり、そのうち整備済み区間が85%に達しているという状況の中で、道路整備アクションプランの柱などを実現するために、残りの15%、未着手区間32kmを整備することで完結するのか。そういった所も含めて福岡市の道路ネットワーク全体の今後に向けて、拡充していくのか、あるいは質を高めていくのか、都市計画道路全体の506kmの見直しも含めて検討していく必要があるのではないかと感じた。

- ◎都市計画道路の整備にあたっては、多額の事業費を要するため、今回の意見を踏まえつつ、最終的には市の方で結論を出していただければと思う。

(4) 今後のスケジュールについて

特に意見なし